

# 平成30年度施政方針



平成30年度の予算が3月定例市議会  
会で成立しました。後藤市長は、本年  
度の予算説明を通じ、市政運営の基  
本的な方針並びにその主要施策など  
について所信の一端を述べ、市民の皆  
さんの市政に対する深いご理解とご  
協力をお願いしました。その趣旨は次  
のとおりです。

昨年4月、二期目の市政を担わせて  
いただくこととなり、身の引き締まる  
思いと、その責任の重みを感じなが  
ら、わが豊前市の発展とさらなる市民  
サービスの質の向上に努めてまいりま  
した。具体的施策を提示し、一歩前  
に進む年にするため、市民の皆様の知  
恵や力をおかりして協働のまち豊前  
をもっと明るく元気にしていきたい  
と考えております。

さて、国においては、一億総活躍社

会の実現を目指し、「三本の矢」を強  
化して、「新・三本の矢」を放ち、少子  
高齢化という構造問題に正面から立  
ち向かい、成長と分配の好循環の実  
現に向け取り組んでいるところです。

これまでの国の施策の実施により、  
企業収益は過去最高を記録するとの  
報道もあり、就業者数の増加、賃上  
げなど雇用・所得環境は、改善し、経  
済の好循環が実現しつつあると言わ  
れています。

他方、経済の先行きについては、緩  
やかに回復していくことが期待され  
るものの、海外経済の不確実性や金  
融資本市場の変動の影響等に留意す  
る必要があります。成果を十分に実感で  
きていない地域の隅々までその効果を  
波及させ、経済の好循環を更に加速  
させるように、施策を実施するとし  
ています。

こうした国の財政は、引き続き厳  
しい状況にあり、「経済再生なくして  
健全財政なし」を基本に、生産性革  
命と人づくり革命を車の両輪として  
少子高齢化という最大の課題に立ち  
向かい、基礎的財政収支の黒字化を  
目指すという目標を堅持するととも  
に、債務残高対GDP比の安定的な  
引下げを目指すこととしています。

誰もが生きがいを持って充実した  
生活を送ることができ、一億総活躍  
社会の実現に向け、「新・三本の矢」に  
沿った施策を推進するとしており、そ  
れぞれは、相互に密接に関連してお  
り、一体的に推進することで、成長  
と分配の好循環を確立し、日本経済  
全体の持続的拡大均衡を目指すもの  
であります。

本市においても、国の動向を注視し  
ながら、市民の皆様のご理解とご協力  
をいただき、市民サービスの向上に努  
めてまいりたいと考えております。

次に、本年度の主要な取り組みにつ  
いて申し上げます。

## し尿処理

し尿処理の公共下水道へのつなぎ  
込みについては、し尿や汚水の処理施  
設を整理統合し、今後供給される予  
定のダムの水を活用するとともに、既  
存施設の一部を利用することも検  
討し、経費を節減することに努めて  
まいります。また、施設の運営につ  
いては、吉富町・上毛町の両町に対し  
ては、吉富町・上毛町の両町に  
継続的に粘り強く参加・共同運営の  
提案を行ってまいります。

## 安全・安心なまちづくり

昨年7月に発生した九州北部豪雨

では、自然の脅威を感じ、防災に対す  
る意識の重要性をあらためて認識さ  
せられました。

今日の豪雨をみると、法律が作  
られた時代の雨の降り方とは、明らか  
に異なっており、国における想定雨量  
等の見直しの必要性について、福岡県  
市長会において、発言し、国や県に要  
請を行う検討をお願いしました。

市として要望活動を継続してまい  
りますが、地震や津波の発生を想定  
した防災訓練を計画的に実施してま  
いりますので、市民の皆様には、積極的  
に訓練に参加していただき、市民一人  
ひとりの防災に対する意識の高揚を  
図っていただければと考えています。

また、昨年発足いたしました防災  
士会や消防団と連携し、市民に対し  
て、防災活動の支援等を行うことに  
より、地区単位での自主防災活動の  
促進と強化を図り、市全体の防災力  
向上を目指します。そして、市民への  
防災情報や行政情報を迅速に周知  
するため、様々な改善のご指摘をいた  
だいている防災行政無線については、  
建物内への浸透性に優れ、文字表示が  
可能な戸別受信機を全戸配布する  
ための設計費を計上しております。

大規模災害に迅速に対応するため  
の情報網の構築を図り、地域防災力  
の拡充を行い、市民の皆様様の生命・財  
産を守るべく引き続き災害対策の強  
化・多重化に取り組んでまいります。

## 人口減対策

死亡などの自然減と就職進学などで市外に転出する社会減に対処して、出生や転入による増加との差をマイナスからプラスへと転換していくための方策として、求職・転職・U・I・ターン希望者等を対象にした豊前市企業合同就職説明会を開催しました。

本市の企業のことをよく知っていたが、自分に合った企業が見つかった方がいれば幸いです。

初めての試みではありましたが、多くの方々の参加をいただき、非常に喜ばれており、今回の説明会が、定住・移住の一助になればと考えています。

さらに、市政懇談会で紹介しましたが、人口の1%を毎年増やせば、人口減少は食い止められるという理論で、豊前市の人口の1%は、131行政区で分けると1区あたり2名増やす計算です。行政区の方々の親戚等に本市に転入してもらえば、可能性はゼロではないと考えます。これは、行政だけではなく、地域の力が大きく求められますので、地域や民間と協働で取り組みたいと考えています。

## 健康・福祉の充実

市長就任以来、取り組んできた「生涯現役社会づくり」の施策につきましても、高齢の在宅の方々を主な対象に

してまいりました口腔ケア事業をさらに推進するため、保育園や小学校などに発展させ、さらに、企業などにも呼びかけを行い、より多くの皆様に参加いただけるように努めてまいります。



健康増進につきましては、病気の予防と早期発見が必要です。特に、塩分のとり過ぎは、生活習慣病につながり、重症化するおそれがあります。減塩教室など食生活改善推進事業の活動を広く市民に呼びかけるとともに、定期健診がん検診の受診率を向上させ、医療費の抑制に努めてまいりますので、皆様のご理解をお願いいたします。

高齢者福祉・介護予防につきましては、肩こり腰痛予防教室やトランポリンを利用した健康教室を実施するとともに、認知症サポーター養成講座等にも取り組み理解を深めていただきたいと思います。

子育て支援につきましては、安心して子どもを産み育てることができるよう、企業主導型保育施設への助成を行い、待機児童対策を拡充するとともに

に、乳幼児子ども医療費の助成や第3子以降保育料無料化制度を継続実施し、子育て世帯の負担軽減を図ってまいります。

## 産業の振興

観光の活性化につきましては、観光協会も発足し、観光振興計画の着実な実施により、交流人口の増加を目指します。

まず、観光協会を軸に、長期間利用しやすく滞在していただける山内の古民家や、森林セラピー、農村民泊などのグリーンツーリズム、うみてらす豊前、道の駅おこしかけ等と連携することにより、本市の魅力度を向上し、リピーターの獲得につなげていきたいと考えております。

農林水産業につきましては、鳥獣被害防止対策として捕獲した鹿や猪を処理し、ジビエ料理に使用していただくように獣肉処理施設を建設中です。未利用の鹿肉・猪肉を衛生的に処理することで、付加価値をつけ、特産品化し、流通販売を行える新たな地域資源としての活用を考えています。

企業の振興につきましては、バイオマス発電企業である豊前ニューエナジー合同会社の工事が本格化します。今までの以上の関係者が本市に長期滞在していただければ、商店街等の活性化につながると期待しています。

## 教育・文化の充実

教育につきましては、小学校の外国語活動を充実させます。

2020年から新たに小学校中学年で活動型の外国語活動の導入、高学年で教科型の外国語科が実施されることに伴い、移行期間は、授業時数が15時間増加することになります。現在の英語専科講師等に加え、民間より講師を招き、手厚く外国語教育を浸透させ、未来ある本市の子供たちの外国語力育成を目指し、楽しく充実した学びになるように学習環境の整備に取り組みます。

中学生のハワイへのホームステイ派遣事業につきましては、国際感覚を持った人材育成のため、継続実施し、あわせて特色ある外国語教育を行い、コミュニケーション能力の向上に努めてまいります。

文化の振興につきましては、子供の読書ばなれの対策として、図書館と各学校による読書リーダー養成事業を継続して実施しますが、昨今の図書館利用者の減少傾向に歯止めをかけるため、来館して資料の貸出や返却が困難な高齢の方、障がいをお持ちの方に対して自宅へ伺って貸出・返却を行うなど、更なる読書の推進に努めてまいります。

さて、近年、従来の行政区において高齢化等の理由により地域コミュニティの維持が困難になっております。そこで、

地域における課題を住民が自ら解決し、各団体が取り組みを共有することにより、コミュニティの強化を図る取り組みを市民の皆様と協働で実施したいと考えています。

具体的には、豊前市生涯学習推進基本計画に沿って、地域毎に公民館を中心とした地域づくり協議会を設立し、地域づくり計画を策定することで、地域課題の共有・解決を図りたいと考えています。

また、新年度は、平成28年度から3カ年計画で取り組みを進めております豊前市歴史文化基本構想策定の最終年度にあたります。これは、地域の誇るべき歴史・文化遺産を今後の地域の活性化に活かすためのマスタープランであり、八屋、宇島、松江など歴史的景観地区の活用を中心にその具体的な計画を示すものであります。

同じく、市内に伝承される山田の感応楽につきましては、国の重要無形民俗文化財の指定を目指します民俗調査も最終年度をむかえ、旧豊前国を代表する民俗芸能として報告書のとりまとめを行います。

さらに、史跡求菩提山につきましてはその活用を図るべく計画的に整備を行うっておりますが、新年度より山中に残されております数少ない建造物である瀧蔵坊(りゅうぞうぼう)の保存修復に着手いたします。これは、江戸時代後期の貴重な坊跡であり、豊前修験道

を担った山伏の当時の暮らしの様子を今に伝える重要な文化財です。併せて、その活用について整備基本計画の方針に従い、具体的な検討を進めてまいります。



### 機構改革

市の機構が大きくかわります。昨年の12月議会において、豊前市で初めての部制導入を可決いただきました。市長・部長・課長・係長を基本とする機構改革を行い、市民の立場に寄り添い、協働のまちづくりにつなげられるよう取り組みでまいります。未知の体験ではありませんが、市民サービス向上のため、各担当が知恵を出し合い、市役所全体で情報共有を行い、より良い体制にしていきたいと考えています。

### 宮城県東松島市との友好都市の締結

豊前海一粒かきの種がきを仕入れて

いることが縁で、東日本大震災からの復興支援として東松島市との交流が始まりました。漁協による漁船の提供、職員の派遣、震災復興体験学習等多方面において友好的な交流が図られております。

このように、本市と東松島市は、6年にわたる交流の中で深い関係が築かれ、これまで培われた交流と絆を更に発展させ、お互いの理解と友情のもと、友好親善を樹立するとともに、教育・文化・産業等の交流を図り、両市の住みよいまちづくりと繁栄に寄与するため、友好都市提携の締結を行う予定にしております。



以上、申し上げてまいりましたとおり、新年度は第5次総合計画後期基本計画を実行する重要な年であります。2期目の重責を担った今、心を新たに、全庁をあげて取り組んでまいりますので、議員並びに市民の皆様のご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。